

7時開門問題

このままでは
いいわけない

教職員の思いを伝える100人集会

主催:全群馬教職員組合



【本日の予定】

18:00 オープニング

- 委員長あいさつ
- 7時開門の経緯の説明、問題点についての提起

18:20 会場からの発言

19:35 クロージング

- 組合だからできること
- ステッカーに込めた思い
- 集会のまとめとこれからの展望
- 事務連絡

20:00 解散

【今回の100人集会に寄せられた声】

いつもお疲れ様です。小さな声も100人集まれば大きな声になりますね。平日は戸締まりすると退勤が19時すぎなので、当日は行けないと思いますが、資料がいただけたらありがとうございます。

校務員って、何でも屋さんじゃ無いんだけど！

（組合の皆様へ）日々のお忙しい業務の中、私たち高崎市の教職員・公務員、なにより子どもたちのために懸命に動いてくださって本当にありがとうございます。未来の子どもたちを育てる教育が、一個人の利益や政治に利用されることが私は教師としてではなく1人の大人として本当に嫌です。この取り組みが、学校現場だけでなく、子どもの1番近くにいる親御さんや社会にも広がり、今の社会の仕組みや家族のつながりを再度見直すきっかけになり、誰もが自分とみんなのために気持ちよく働いたり生活したりできる社会になることを願っています。

心のもやもやを、疑問を、そのままにせずに動いてくれている人がいることに心から感謝しています。

私はまだ4年目なので、これから後40年ほど働くと思います。高崎市でこの施策が通ってしまうと、教員になろうか悩んでいる世代にも伝わり、更に教員のなり手が減ってしまうと思います。誰に取つても良い施策とは言えないと思います。

来年度から7時に開門します、と突然の決定。賛成、反対の前に、一教職員として、実施に関して疑問に思うことや湧き上がってくる不安を出す機会すらないことが本当におかしいと思います。教職員は、子どもたちや保護者の思いに耳を傾け、丁寧に対応することを日々心掛けています。高崎市は、私たち教職員の思いにも耳を傾けて欲しいと思います。

子ども達のために、将来の未来のために。高崎市の先生の、群馬の先生の、先生みんなの人権を守りましょう！

市長や教育委員会との対話が不可欠と感じます。現場の声を知ってほしい。

お忙しい中、早朝7時開門問題についての活動ありがとうございます。一度撤回して頂けるよう今後も現場の声を聞いてもらいたいです

みなさんと共にがんばります

市長の独断先行から子どもたちを守るために議会にみんなの声を届けます。

誰かが子供の安全を守ってくれるから大丈夫、という計画がまかり通るなら、避難訓練では、初期消火も、避難誘導も、人員確認も、消防への連絡も、担当者は必要がなく、全て「その場にいる誰かがやってくれるから大丈夫」ということになります。何という危険に満ちた町でしょうか。高崎での子育てだけはしたくありません！

開門7時は無理があります。校内で起こったことは学校の責任になってしまいますし、登校班全体の安全も確保できません。このような活動をしてください、感謝しています。

頑張って阻止してもらいたい

企画ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

7時開門、絶対反対。みんなで叫びましょう。

子供を持つ親として発言させて頂きます。私達の子供を、学ばせて頂いて、心より感謝申し上げます。国の政策や、県の政策や、市の政策等で、教職員の方々の負担が、更に増えてしまう事は、大変な問題かと思います。

勝手に、高崎市の決めたルールかと思いますが、だったら、そのルールを決めた議員さんだか、誰かは、わかりませんが、その方々に開けてもらった方が良いかと思います。その運動に対して、組合を通して、その反対運動をする様ならば、多分参加出来るかと思います。1箇所に集まって、集団感染やら、何か問題有れば、職員のせいになるのは、きっと目に見えてる。働く者の権利は、お互いさまだと思いますが、それでなくても、教職員の労働条件は、グレーで、優良企業では無いと思いますので。ともに頑張りましょう。

教員の善意、保護者の善意に任せて、行政の穴埋めを無償やボランティアでさせ、さらに穴を大きくするやり方に反対します。高崎だけの問題ではありません。また、事の進め方に疑問を感じます。

勝手ながら神奈川を代表し、高崎に駆けつけさせていただきます。この問題は単なる労働問題ではなく、留守番のできない年齢の児童がいる保護者が早朝から働くを得ないという社会問題であり、児童の安全が脅かされる人権問題でもあります。首長が教育に口を出す不法（に近い）行為が全国あちこちで黙って見過ごされてきたのは、市民の政治・教育への無関心が招いた結果であり、教育の崩壊の大きなきっかけとすらなり得るものです。この集会をきっかけに大きなムーブメントが起こり、教育関係者のみならず市民を動かすきっかけとなることを願って止みません。

日常の勤務に加えてこのような重大な活動ありがとうございます。校門を7時に開けるより、義務教育中の子を持つ保護者が所属する会社が勤務時間について柔軟に対応するよう、社会が動くべきと考えます。子どもの健全な成長は社会の健全な在り方なくして成立しません。活動に全面賛同いたします。

(高崎とは離れているのでXなどのネット記事を追いかけてきました)一番驚いたのは、学校教育に大きな影響を及ぼす仕事をしている文科省、国立教育ナンチャラという経歴の方が、ここまで現場への想像力が欠損していたのかという点です。ちょっと想像すればわかることがわかっていましたね。本当に残念です。教育長の答弁も初めからどうもおかしいと思っていましたが、最近になって教育長、市長双方の経歴を見比べて関係がわかりました。なるほど。納得しました。

働く母親のニーズに応えることも必要だと思います。開門するだけで解決することではないと思います。隣の家のことだから、自分の家には関係ないと言う意識から、自分が住んでいる地域を自分のこととして考える視点が大事であり、地域と一緒に行動していくことが必要だと思います。地域にある学童クラブを活用し、人材はシルバー人材センター等の地域の方々にお願いしていくことで、地域のこととして考えられると思います。地域の子どものことを他人事にしない地域で守りましょう。

さまざまな課題を検討することもなく、子どもたちの安全も守れず、教職員の負担も増やすことになる施策を、市長の人気取りだけで行なうことは許されません。撤回することを求めます。

高崎の問題は、勤務校の人権教育研修会でも、高崎市長の顔写真と共に紹介させていただきました。研修中、用務員の方に「もし、お一人で早朝に登校した児童の対応をするよう求められたら如何ですか。」と尋ねると、「無理です…」。子育て中の職員に、「もし、栃木市の学校が、7時開門になつたらどうですか。」と尋ねると、「絶対嫌です…」。そして、口を閉ざせば人権は権力によって往々にして奪われてしまうこと、自分の人権も護ろうとしない教師が、子供の人権を守れるはずが無いことを伝えました(100人集会の素敵なちらしも、新聞記事と一緒に勤務校で配布させていただきました)。起きてしまった事案は最悪ですが、全群教の闘いは、最高です！普段、勇気を分けていただいている恩返しが少しでもできたら、と思いつつ、お伺いしたいと思います。

【時系列】

2024年 早朝開門を求める保護者に対し、高崎市教委は不可能と回答（市HPより）

2025年7月7日 26年度からの7時開門を発表（必要な人員配置も制度設計もなし）

8月8日 全群教が声明を発表。市と市教委に意見書と要求書を提出

8月20日 記者会見

9月議会 不誠実答弁

10月10日 教育長発言の真偽を確かめる情報開示請求に行政文書不存在決定通知

10月16日 市教委交渉 ゼロ回答 再要求書を提出（2週間以内の回答を要求）

10月16～31日 全群教がアンケートを実施（賛成9／反対613／その他18）

11月5日 2度目の記者会見

11月10日 アンケート結果を市長、市教委に提出

11月13日 公文書書き換え（教育長発言と公文書の矛盾をなくすため）

11月18日 再要求書への回答文書 ゼロ回答

12月議会 不誠実答弁

【市教委のスタンス】

（当初の説明）校務員が7時に開門。教員の負担は増えない。やり方は各校に丸投げ。

- ・教員も管理職も早朝出勤する必要はない。
- ・トラブルには校務員や管理職、自主的に早朝出勤している教職員が対応するだろう。
- ・制度を利用する児童の把握は求めない。各学校が必要と思えばやればよい。
- ・各学校が増やす仕事は自発的なものなので、教員の負担を増やしたことにはならない。
- ・学校の判断で「子どもの安全が確保できないから実施しない」ということは認めない。
- ・校長会の了承を得ているので、教職員の意見を聞く必要はない。
- ・「校長会長との口頭でのやりとりであったため、議事録は作成していない」という公文書は、「校長会との口頭でのやりとり～」と変えたため、教育長発言に矛盾はない。
- ・見守りや居場所づくりではなく、開門事業なので、見守り員は要らない。
- ・賠償責任は市が負うので、事故を起こさないための制度設計は不要。
- ・見守り員をつけるなど、朝の居場所確保を検討している自治体は3%程度なので、見守り員は不要。他地域の先行事例に学ぶ必要はない。
- ・退職する校務員は家庭の事情であり、本施策が理由とは把握していない。
- ・特別な配慮が必要な場合は、当該児童の状況に応じて各学校が保護者と相談しながら対応するものと考えている。
- ・校務員に安全配慮義務がないということはない。

【市教委のスタンス：つづき】

- ・7時開門事業の発表で、これまで早朝勤務を諦めていた家庭が顕在化するため、相当数のニーズがあると考えている。ニーズ調査はしない。
- ・本事業は文科省が示す「児童生徒を預かる活動」には該当しないと認識しているため、文科省指針に反していることにはならない。

文科省指針

登下校時の通学路における日常的な見守り活動等 教育委員会が中心となり、保護者又は地域住民その他の関係者が担う体制を構築すること。なお、学校の日課表等において定める児童生徒が登校すべき時間は教育職員の所定の勤務の開始時間より後にするものとすること。また、教育職員の勤務時間より前又は児童生徒の下校時刻より後の時間帯に、学校施設において児童生徒を預かる活動を行う必要がある場合には、地方公共団体は、保護者又は地域住民その他の関係者の参加を得て、学校以外が管理を行う体制を構築すること。

【市長の発言】朝日新聞より

- ・開門を前倒しするだけ。子どもが来たら「入りなさい」で済む話。
- ・反対意見は少数だとしたうえで、「（早朝開門の方針に）全く関係ない」として予定通り来年度から実施する考えを示した。
- ・「なんでも『嫌だ』という人はいますよ」と語り、教職員の大勢の考え方ではないとの見方を示した。
- ・アンケートで「現場の声を聞かずに勝手に決めている」との批判が少なくないことには、「教員のみなさんのなかには、そういう意見がある。『ともかく仕事が増えないように』ということでしょう」と発言。
- ・「いちいち現場の先生一人一人に聞くことはない。手続き的に問題ない」と強調した。
- ・「校長は教員にしっかり説明するべきだと思うか」と問われると、「それは学校のなかの問題」と述べるにとどめた。
- ・トラブルなどが起きた場合は、開門する校務員が対応にあたると説明し、「何かあったからといって教員に出勤を求めない」と強調した。
- ・「学校にいる教職員が対応するでしょう、と言っているだけの話。勤務として教員に早く出てきなさい、ということは求めない。当たり前のこと」と述べた。

10月17日～31日に行ったアンケート結果(回答数640)

データには反映されていませんが

〆切後にも27名の方が回答し、すべて「反対」意見でした。

右のQRコードか下記URLから、書き込まれたコメントもすべて読みます。



<https://x.gd/ref9F>

集会決議（案）

現場で働く教職員に相談もなく、決定事項として突如発表された7時開門。どのくらいのニーズがあるのか。子どもたちの安全はどうやって守るのか。トラブルへの対応はどうするのか。教職員の働き方にどんな影響があるのか。議論も制度設計もないまま、「実施すること」だけが決まり、現場に丸投げされた。

彼らは言う。

教員の負担は増えない。ただ門を開けるだけ。トラブルはいる人が対応すればよい。反対意見に耳を貸す必要はない。賠償責任は市が負うのだからいいだろう、と。私たちは「子どもたちの安全を守りたい」「健全な発達を支えたい」と思っている。今のままでは子どもたちを守れない。だから私たちは声をあげ続ける。

彼らは言う。

校務員が門を開けるだけ。子どもには「入りなさい」で済む話、と。校務員には校務員の仕事がある。もし100人の子どもが来たらどうするのか。例え子どもが1人であっても、暖房もない教室に「入りなさい」で済む話なのか。そして、「責任を負えない」と退職する校務員の穴を埋めるための大量募集。これは学校の仲間である校務員への人権侵害だ。だから私たちは声をあげ続ける。

彼らは言う。

なんでも「嫌だ」という人はいますよ。
「ともかく仕事が増えないように」ということでしょう、と。
誰かから冷笑され、馬鹿にされると、人は萎縮し、声をあげにくくなる。
しかし、おかしいことに誰も「おかしい」と言わない社会は、やはりおかしい。
私たちは、子どもたちのためにならないことには反対の声をあげる。
教職員への人権侵害に対しては抗議の声をあげる。

私たちは、おかしいことには「おかしい」と言う人間でありたい。
子どもたちに範を示す教職員として。大人として。
だから私たちは声をあげ続ける。

本日、ここに集った参加者の総意として、この決議文を採択し、
市当局に対して、事業の撤回と再検討を求めます。

教職員の思いを伝える100人集会参加者一同
2025年12月19日